

令和6年度 滋賀県立総合保健専門学校関係者評価懇話会

日時：令和6年11月20日(水) 13:00～15:06

場所：総合保健専門学校会議室

出席者：学校関係者評価懇話会委員8名・事務局6名

内容	
1. あいさつ	13:00～
2. 自己紹介 ・各施設出席者自己紹介	
3. 議題	
(1) 令和6年度 組織目標について	13:04～13:13
(2) 令和5年度 学校自己評価結果について 意見・質疑応答	13:13～14:07
(3) 令和6年度 学校運営改善の取り組みについて	14:07～14:14
(4) その他	
①令和6年度オープンキャンパスについて 意見・質疑応答	14:14～14:28
②令和7年度入学試験について 意見・質疑応答	14:28～14:33
4. 校内視察	14:33～15:06

意見・質疑応答

(1) 令和6年度 組織目標について

(2) 令和5年度 学校自己評価結果について（教員自己評価結果 及び 学生アンケート結果より）

人権尊重について

・アンケート結果より人権が尊重されていないと感じている学生は、どのようなことで人権が守られていないと感じているのか。【委員】

→教員の言い方がきつい、口調が自分に対してのみ厳しい、名前と呼ばれない、指導の場所を考えてほしいなどの意見があった。学生は一人ずつ自分のことを見ていて欲しいと感じているといえる。意見箱への意見に対しては、「このような意見をいただきありがとうございます」という一文をつけてタイムリーに掲示にて返答している。また、職員には会議で共有し、適宜人権研修やハラスメント研修を行った。学生と職員の間でコミュニケーションを取り、上手く関係性を構築する必要があると感じている。【事務局】

→現場でも新人指導の際、先輩が気を遣っているのが現状である。的確な指導をしなければ成長にもつながらないが、あまり言うとはラスメントと言われる。今は学生時代からハラスメントの意識が高いように思われる。学校でも現場と同じような現状があることが今の話からよく分かった。【委員】

→外部講師にも学生に対してどのような配慮が必要であるかを伝えてほしい。例えば学校で教員に指導している内容など、何を大切にしたら良いかなど教えてほしい。外部講師は、実践者が自分たちの専門的なことを伝えることはできるが、教育を学んできている人は少ないので教育的視点や最近の学生の傾向をふまえ、授業前に人権配慮の部分も含めて教えていただけるとありがたい。【委員】

→現場のスペシャリストに外部講師として来ていただいていることが本校の強みである。人権や学生に対する配慮等で大きな問題が生じないように、教員として事前に伝えることがあれば伝えると良いと今改めて思った。感謝する。【事務局】

→昨年度との比較において人権についてC（あてはまらない）というところが改善されているが、取り組みや、教員で工夫したことはあるのか。何かこの教育が良かったということがあれば、それを外部講師に伝えることで知る機会になるのかと思う。【委員】

→両学科とも例年の評価を受けて、学生との関わりについて意識をしている教員が増えているのかと思う。コミュニケーションを密に取るようにしている。指導の場としては、学生ホールの1つを面接を行う場（ミーティングルーム）として確保した。【事務局】

→人権に関して学生の実習先へも、指導や配慮の内容について情報共有して欲しい。【委員】

⇒人権については当校でも学生の人権のみならず、当校に関わっていただいている人の人権も大切に思っている。今回、多様なご意見をいただいたので、学校として少しでも学生と関わっていただく方にとって良い方向に進むように議論をしていきたいと思う。【事務局】

国際交流について

・国際的視野を広げるための授業科目としては国際看護のような内容を伝えているのか。また、国際的に近年注目されていることを伝えているのか。【委員】

→看護学科は、国際看護の授業は3年生で行っているが、授業時間としては多くはない。他の授業の中でも国際的な視野を交えて行っている。最近の教科書は新しく国際看護も出ているが、そこまではまだ対応できていない現状である。

歯科衛生学科は、海外の歯科衛生士の位置づけや役割が日本と大きく違うことについて歯科衛生士概論で一部学んでいる。他には現場で使える英語を学んでいる。基礎的な学びに加えて、歯科実習室を使って、海外の患者さんが来られた時を想定しての歯科英語を、外部講師から学んでいる。【事務局】

→国際看護師協会からの情報が看護協会には多く届く。日本の看護が注目されている。特に、他国ではあまり活動のない保健師の活動が注目されている。看護を学ぶ人たちの国際的な学会などの情報も必要であると思う。【委員】

ホームカミングデイについて

・ホームカミングデイについては調査中とあるがそのような場があることで卒業後の迷いが吹っ切れることもあるかと思うので、是非とも実施して欲しい。【委員】

(3) 令和6年度 学校運営改善の取り組みについて

社会貢献について

- ・献血に関しては、献血に協力をする方が少なくなり困っているとの話をよく聞く。学生さんに社会貢献として献血をしていただくことに感謝する。びわこマラソンに関しては学生ボランティアとしての参加を継続していただきたい。来年が国スポ・障スポの年となるためボランティアに参加して欲しい。【委員】

(4) その他

①令和6年度オープンキャンパスについて

- ・今年度は、県内の専門学校3校の日程が重なった。今後は看護学校協議会で入試の日程、オープンキャンパスの日程が可能な限り重ならないように調整するようにしたい。【事務局】
- オープンキャンパスの日程については3日にして日曜日を入れることはできないのか。そうすることで土曜日に仕事をしている保護者が来やすくなるのではないか。【委員】
- 来年度は日曜日と月曜日に予定している。オープンキャンパスの運営は、学生を実習室等に配置をして、学生が主体となって行っている。それが3日以上となるとなかなか厳しい状況になる。他校ではもっと日数が多く、自由に見学できる学校があるようではあるが、自由に見学となるとそこに対応できる教員が確保できないため、今の現状では2日で行いたいと考えている。今後は、時間帯や実施方法などの個別対応の検討も考えている。【事務局】
- 今年、大阪の歯科衛生士学校を見学して来た。そこは学校自体がオープンになっており、教室がガラス張りで廊下から見学できる状態になっている。昼夜間部に分かれていて、夜間部の授業風景をそのまま授業を妨げることなく見学できた。【委員】
- 今回、オープンキャンパスの日程が3校重なったことにより、昨年より参加者数は減っているのか？受験しようと思っている人が参加していることを思うと、参加者はしっかり考えたところでオープンキャンパスに来てるように思う。【委員】
- 昨年よりも参加者数は減っている。看護では30人ほど減っている。昨年のデータで、オープンキャンパスに参加した人が何人入学しているかを調べたところ、歯科衛生学科は、オープンキャンパスに参加した人が6割程度入学している。看護学科はもう少し低い割合となっている。【事務局】
- オープンキャンパスを何で知ったかというところでは、ホームページなどSNS等が主流ではあるかと思うが、京都や大阪の私学の専門学校ではオープンキャンパスの予告を駅などにポスター掲示等を大きく打ち出しているため、目に入る機会が多く認識しやすい。オープンキャンパスに参加することで総保専の良さを知ってもらい、入学に繋がるのであれば、参加者を増やすように実習先にオープンキャンパスのポスターを掲示するよう依頼するのが良いかと思う。【委員】
- 高校にはポスターの掲示依頼をしているが、実習施設には配布できていなかった。次年度検討させていただきたい。【事務局】

②令和7年度入学試験について

- ・昨年度入試日を早めたことによって効果はあるのか？受験しやすくなったのか？【委員】
- 受験しやすくなったと意見をいただいた高校もあるが、最近の5年では受験者数が減ってきている。それは少子化や大学への入学者が増加していることが大きく影響しているのだと思う。この先大学の無償化等が進んでいくとさらに確保が難しくなっていくと思われる。【事務局】

4. 校内視察

- ・ミーティングルームの入口に使用中の札があるとよい。部屋の中はパーテーションで仕切られるとよい。【委員】

以上